

速報
2025年12月刊行開始!

〔国宝〕
土佐日記 藤原定家筆
〔重要文化財〕
枕草子 一・二
源氏物語 一・七
〔重要文化財〕
定家本／伝為家・為氏筆本
伝国冬等筆本／源氏物語釈
源氏物語系図／原中最秘抄

平安文学

全10冊

尊経閣善本影印集成

第十二輯

平安文学の至宝を高精細カラー版で刊行!

前田育徳会尊経閣文庫編
〔編集委員・解説〕
伊倉史人・久保木秀夫・高田信敬

定期予約・分売予約募集!

八木書店
YAGI BOOK STORE LTD.

尊経閣善本影印集成【第12輯 平安文学 全10冊】★定期予約・分売予約募集!

- 前田育徳会尊経閣文庫編
〔編集委員・解説〕
伊倉史人・久保木秀夫・高田信敬
★高精細カラー版 ★3ヶ月毎配本・各冊分売可
★B5判(98)は菊倍判二段組・上製・貼函入・平均約二六〇頁
★セット予価三三三・三〇〇円(本体三〇三・〇〇〇円+税)
ISBN978-4-8406-2612-5(ハード)
★各冊平均予価三三・三三〇円(本体三〇・三〇〇円+税)
- ※ISBN 1桁1
第6回配本〔2027年3月〕 2393-3 第5回配本〔2026年12月〕 2398-8
第2回配本〔2026年3月〕 2394-0 第7回配本〔2027年6月〕 2399-5
第3回配本〔2026年6月〕 2395-7 第8回配本〔2027年9月〕 2400-8
第1回配本〔2025年12月〕 2396-4 第10回配本〔2028年3月〕 2411-4
第4回配本〔2026年9月〕 2397-1 第9回配本〔2027年12月〕 2412-1
- 96 源氏一定家本 予価二七、五〇〇円(本体二五、〇〇〇円+税)
97 源氏二伝為家筆本(一) 予価三〇、八〇〇円(本体二八、〇〇〇円+税)
98 源氏三伝為家筆本(二) 予価三〇、八〇〇円(本体二八、〇〇〇円+税)
99 源氏四伝国冬等筆本(一) 予価四〇、七〇〇円(本体三七、〇〇〇円+税)
100 源氏五伝国冬等筆本(二) 予価三六、三〇〇円(本体三三、〇〇〇円+税)
101 源氏六源氏物語釈 予価三三、〇〇〇円(本体三〇、〇〇〇円+税)
102 源氏七系図・原中最秘抄 予価三七、四〇〇円(本体三四、〇〇〇円+税)
- ※冊次と配本順は異なります。
※各冊予価は2025年4月時点での設定です。
※最新情報は小社WEBサイトでご確認ください。
- 尊経閣善本影印集成 Web サイト


【好評既刊】図書館・研究室必備のシリーズ! ★各冊分売いたします

- 第1輯 儀式書全12冊(モノクロ網目版) (セット品切) ISBN4-8406-2291-4
①~⑥西宮記/⑦~⑨北山抄(品切)/⑩~⑫江次第
- 第2輯 類書全5冊(二色刷) (セット品切) ISBN4-8406-2292-2
⑬秘府略/⑭~⑯二中歴・掌中歴(⑭品切)/⑰拾芥抄(品切)
- 第3輯 古辞書全8冊(二色刷) (セット品切) ISBN4-8406-2293-0
⑱⑲色葉字類抄(品切)/⑳節用集/㉑~㉒字鏡集/㉓温放知新書・童蒙頌韻
- 第4輯 古代史籍全9冊(二色刷) セット定価286,000円(10%税込) ISBN4-8406-2294-9
㉔日本書紀/㉕~㉖釈日本紀/㉗古事記/㉘古語拾遺/㉙~㉚類聚国史
- 第5輯 古代法制史料全5冊(二色刷) セット定価163,900円(10%税込) ISBN4-8406-2295-7
㉛交替式・法曹類林/㉜政事要略/㉝~㉞類聚三代格
- 第6輯 古代説話全6冊(二色刷) セット定価151,800円(10%税込) ISBN978-4-8406-2296-7
㉟日本靈異記/㊱三宝絵・日本往生極楽記/㊲新猿楽記/㊳三宝感應要略録/㊴江談抄/㊵中外抄
- 第7輯 平安鎌倉儀式書全10冊(二色刷) セット定価257,400円(10%税込) ISBN978-4-8406-2297-4
㊶内裏式/㊷本朝月令要文・小野宮故実旧例・年中行事秘抄/㊸雲図鈔/㊹無題号記録(『院御書』)・春玉秘抄/㊺春除目抄・京官除目次第・県召除目記/㊻禁秘御抄/㊼局中宝/㊽夕拝備急至要抄・参議要抄/㊾羽林要秘抄・上卿簡要抄/㊿消息礼事及書礼事・大臣二人為尊者儀・大要抄・大内抄・暇服事
- 第8輯 平安古記録全11冊(高精細カラー版) セット定価393,800円(10%税込) ISBN978-4-8406-2298-1
㊿小右記/65水左記/66台記〔字槐記抄・字槐雑抄・台記抄〕
- 第9輯 鎌倉室町古記録全10冊(高精細カラー版) セット定価398,200円(10%税込) ISBN978-4-8406-2299-8
67~69実躬卿記/70実躬卿記・宣陽門院御落飾記・後愚昧記(山門嗾訴記・実豊卿記)/71公秀公記・実隆公記・建治三年記/72外記日記新抄/73外記日記新抄・享祿二年外記日記/7475碧山日録/76蔗軒日録・盲聾記
- 第10輯 古文書全12冊(高精細カラー版) セット定価379,500円(10%税込) ISBN978-4-8406-2300-1
77武家手鑑 付旧武家手鑑/78~88尊経閣古文書纂 諸家文書・社寺文書・編年雑纂文書
- 第11輯 絵巻全4冊(高精細カラー版) セット予価134,200円(10%税込) ISBN978-4-8406-2611-8
89荏柄天神縁起/9091一遍聖絵/92豊明絵草紙・祭礼草紙(91)2025年6月・(92)2025年9月)
- ※各輯在庫は2025年4月時点での情報です。
※最新情報は小社WEBサイトでご確認ください。



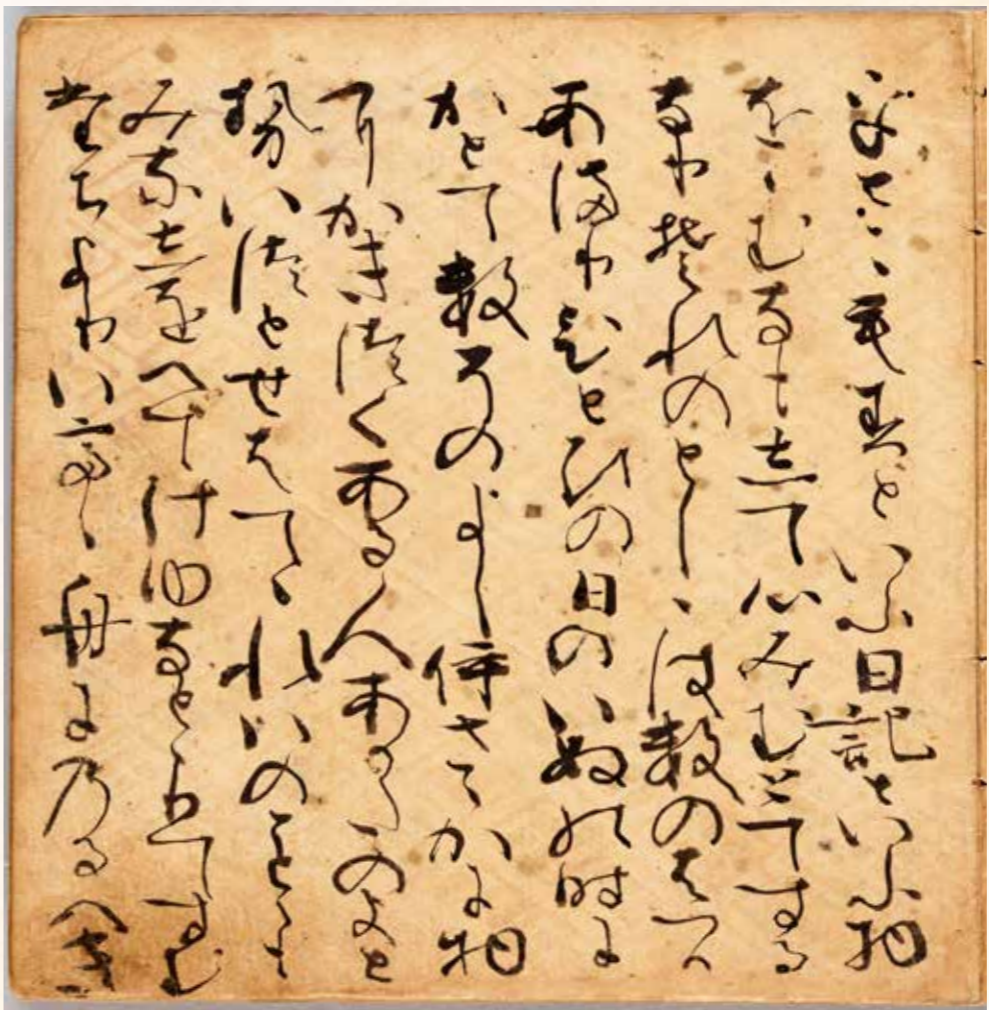
八木書店
YAGI BOOK STORE LTD.

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-8 ●E-mail pub@books-yagi.co.jp
●TEL 03-3291-2961〔営業〕03-3291-2969〔編集〕●FAX 03-3291-6300
●Web https://catalogue.books-yagi.co.jp/ (2025.4.PP.13,000)

⑨3 土佐日記

藤原定家筆 一帖 文暦二年(一二三五)写【国宝】

文暦二年(一二三五)藤原定家は蓮華王院に伝来した紀貫之筆本を書写する。七十四歳という老齢を押し二日間のうちには写したという。その奥書には、装丁、料紙、紙数、法量、書写の形式などが記されており、貫之自筆本の姿を彷彿とさせる。また、巻末に模写された貫之の筆跡は、貫之の自筆資料が確認されていない現在極めて貴重。定家息為家が貫之自筆本を忠実に書写しているのに対して、本書には独自の校訂が加えられていて、定家が『土佐日記』をどう読もうとしていたのか、知ることができる。仮名遣いも改めてられており、定家仮名遣いの研究上、重要な資料となっている。



⑨4・⑨5 枕草子 一・二一四帖 鎌倉時代中期写【重要文化財】

伝二条為氏筆、鎌倉時代中期の書写。本文異同の錯綜極まる『枕草子』諸本にあつて、定家本(三巻本)・能因本・堺本と併設される、前田家本という一種がまさに今回影印化される一本である。それら三種のいずれとも異なる独自本文を大量に有し、かつ同種の伝本は他に一本もないという、実質上の天下の孤本として比類なき貴重さを誇る。現存の四半本四帖はそれぞれ「は型」章段・「もの」型章段・随想的章段・日記的章段でまとめられ、各帖内部でもかなり整然とした章段配列とされている。かつ改行の仕方や項目の配置の仕方、字間の取り方といった当該本の書写形式が、そのまま本文・章段・構成等の解釈や把握に結びついていくところも存する。換言すれば活字化・校訂化される以前の当該本の姿をよくよく観察・検討・考察等していくことによって、諸本中に屹立する「前田家本」の深い理解が初めて可能になるはずだということである。

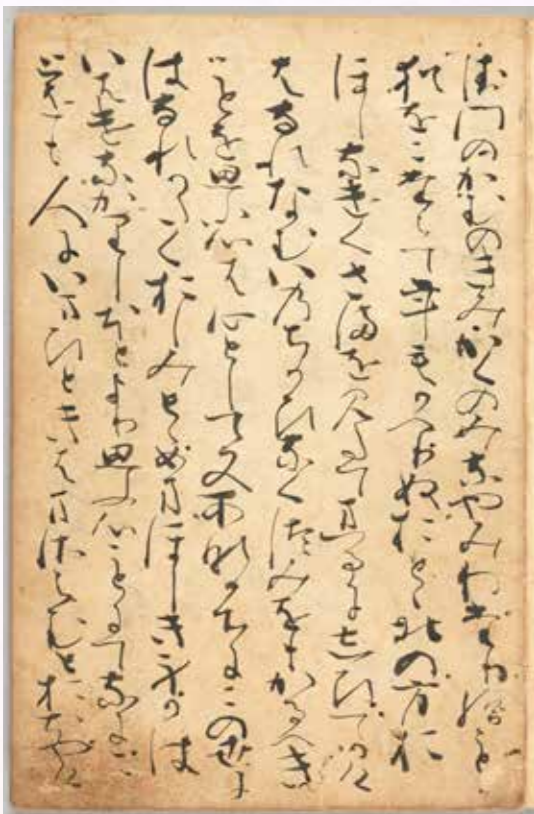


⑨6 源氏物語 一〇七

一 定家本【重要文化財】

花散里・柏木の二帖。青表紙本系統の源流の一つであるのみならず、あまたの『源氏物語』諸本中書写時期・書写者の判明する最古写本として価値が高い。高解像度の影印により本文の様態・書き入れ・訂正等が確認でき、「源氏物語」本文の分析や古典学者藤原定家の書写活動を具体的に解明する上で大きな意義がある。書誌学的徴証から、若紫・花散里・行幸・柏木の四帖が過去のある時期に一括保管されていたことがわかり、柏木の料紙検討によって、少なくともさらに一帖を加えた五帖がまとまっていたことを推定できる。

定家本 柏木



二・三 伝為家・為氏筆本

伝為家筆本 既に簡潔な紹介と校合による本文の提示は行われているが、典籍それ自体の具体把握や本文・書き入れ・訂正等の確認も不可能であったので、高水準の複製により飛躍的な研究の進展が期待される。鎌倉時代中期に遡る青表紙本七帖・河内本五帖は、伝本研究資料として極めて貴重であり、静嘉堂文庫に蔵される傍巻と合わせて得られる知見が多い。

伝為氏筆本

権本一帖。伝為家筆本と同様、簡略な説明と校異提示のみがな

されており、本文の具体的なあり方は今回の複製によって初めて明らかとなる。鎌倉時代中期の青表紙本として本文研究上の価値が高いのみならず、伝為氏筆本は打ち紙二枚貼り合わせと推される料紙を用い、また中世の一般的な六半升形本よりかなり大きいので、書誌学的にも興味深い伝本である。

四・五 伝国冬等筆本

宇治十帖のうちの六帖分が伝存。総角巻のみ伝津守国冬筆、他の東屋・浮舟・蜻蛉・手習・夢浮橋巻は伝西山慈寛筆。南北朝時代を下らぬ書写。本文は河内本。『源氏物語大成』校異篇に採用されているものの、書物としての姿を含めた全貌が明らかとなるのは今回が初。すなわち各帖縦三十二cmに届かんとする格別の大型本であり、そのような書型、また河内本の本文を有する点で、尾張徳川家旧蔵本や、近年注目を集める伝藤原為家筆本(零本・断簡として現存)との親近性・関連性が俄然注目されてくる。読解を助ける朱点や種々の注記も施されており、『源氏物語』をどのように読もうとし、読ませようとしていたのかも垣間見られるであろう、非常に有益にして示唆に富んだ古写本である。

六 源氏物語釈

藤原伊行による本書は現存最古の『源氏物語』注釈書。現存する伝本は実質四本のみであり、かつその四本のいずれにも多大な本文異同が存する。それらのうちの一本たる前田家本は伝二条為定筆の枳形本一帖、南北朝時代の書写であり、冷泉家時雨亭文庫蔵本と同じかほほそれに次ぐ古写となる。しかも四本中で最も記載量が多いという点で性格や位置づけを巡っての議論も存し、絶対的な説を見ない。他本はさておき、前田家本それ自体でも、注の一部として和歌等が引かれるべきところで空行(欠巻)状態になっていたり、明白な後補料紙が挿入されていてそこに脱落が存することが知られたり、原本それ自体の姿を視認することによって初めて自覚化され問題化され得る箇所が随所に存する。今回の影印は『源氏物語釈(源氏釈)』に関するいっそうの厳密精緻な研究の進展をもたらし得るはずである。

原中最秘抄

源光行の残した『水原抄』草稿(佚書)を子の親行がまとめ、孫の聖覚、曾孫の行阿等が加筆した河内方による『源氏物語』研究を集大成した注釈書。伝本には耕雲明魏(花山院長親)が抄出した略本系統と伝本系統とが知られる。伝本系統では、従来、阿波国文庫旧蔵本を底本とする『源氏物語大成』翻刻が多く用いられてきたが、同本は戦後徳島県立光慶図書館(現在徳島県立図書館)の火災にて焼失。金子元臣氏蔵本も戦火に失われ、現存する伝本系統は国立歴史民俗博物館蔵本と本書のみ。両本は同時期の書写であるが、本書は歴博本の誤りを正すことができる点が少なくなく貴重。

七 系図・原中最秘抄

『源氏物語』の登場人物を系図形式で示す。三条西実隆が青表紙本系統の『源氏物語』に対応させるべく整備した系図以前に成立したものを古系図という